

2010-11 年度日本マレーシア学会(JAMS)の運営方針

運営委員長 西尾寛治

2010年度がスタートしてから5ヵ月となります。会員の皆様にはご清栄にて益々ご活躍のことと拝察いたします。

さて、2010-11 年度日本マレーシア学会(JAMS)の基本的な運営方針について説明いたします。2009 年度の日本マレーシア研究会の会員総会では、学会化が承認され、また学会化と関連したいくつかの事項が承認されました。会員総会で承認された今期の運営方針は、下記の4点にまとめることができます。

- A. 運営体制の整備
- B. 学会誌の創刊
- C. 研究企画の充実化
- D. 公開セミナーの拡充

以下、それぞれについて説明します。

A. 運営体制の整備

学会化を受けて運営体制の整備を実施しました。具体的には、次の2点を実施しました。

- ・会員への連絡業務などについては、電子化へ移行を原則とすることで、業務の簡素化を実現する。そのため、広報局は廃止し、その機能を事務局の中に吸収しました。
- ・学術組織への加盟(具体的には、日本学術会議、地域研究学会連絡協議会、地域研究コンソーシアムなどの学術組織です)。

B. 学会誌の創刊

学会化と連動して、学会誌を創刊し、学術研究のさらなる活性化を目指します。また、そのことにより、研究発信拠点としての JAMS の機能を

高めていくことを目指します。

なお、この業務を担当する組織として会誌編集委員会を新設しました。

C. 研究企画の充実化

前期には研究連携ウイングがあまり有効に機能していませんでした。そうした反省をふまえ、今期は、研究大会の共通論題テーマおよびその他の共同研究の企画立案を研究連携ウイングの担当業務として明確に位置付けました。この目的達成のため、今期の研究連携ウイングには、多様な専門分野の研究者を増員配置しています。

D. 公開セミナーの拡充

公開セミナーは、前期に社会連携ウイングにより「JAMS 社会連携フォーラム」としてスタートしました。今期は、この「JAMS 社会連携フォーラム」の一層の拡充をめざします。すなわち、テーマや開催方法などを再検討することで、社会のより広範な分野との連携をはかります。また、より多くの会員の皆様の参加を達成することを目指します。

以上、今期の基本的な運営方針について述べました。具体的かつ詳細な方針については、続く各部門の項をご覧ください。

2010-11 年度、JAMS は学会化に踏み出しました。もとより運営委員のメンバー一同はこの新たな挑戦を成功させるべく最大の努力を傾注してまいります。会員の皆様も、以上の運営方針をご理解の上、どうか前期以上のご支援とご協力を賜りますようお願い申し上げます。